

都市再生整備計画 事後評価シート

JR茨木駅南地区
(地方都市リノベーション事業)

平成28年3月

大阪府茨木市

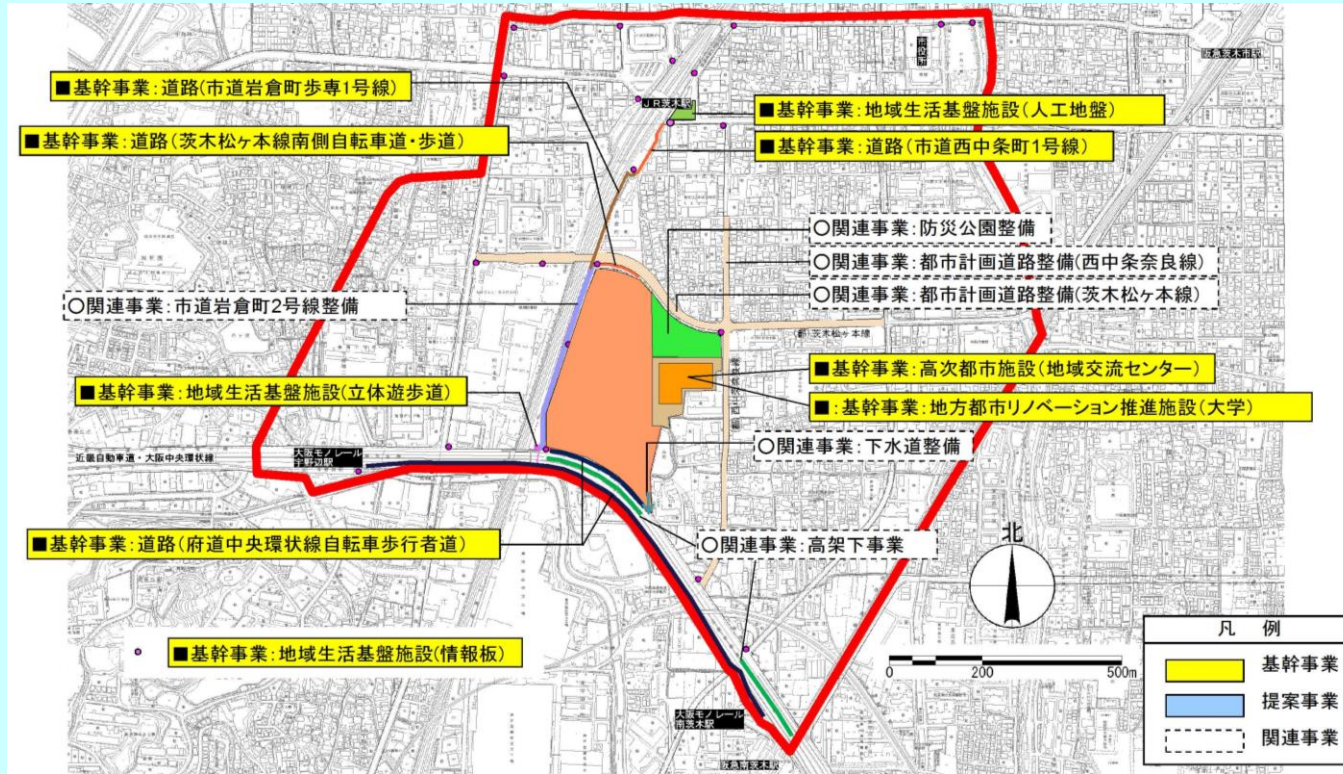
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	茨木市	地区名	JR茨木駅南地区(地方都市リノベーション事業)			面積	158 ha				
交付期間	平成23年度～平成27年度	事後評価実施時期	平成27年度	交付対象事業費	2,998(百万円)	国費率	0.5						
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道岩倉町歩専1号線、市道西中条町1号線)、地域生活基盤施設(情報板)、地域生活基盤施設(人工地盤、立体歩道)										
		提案事業	なし										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(府道中央環状線自転車歩行者道、茨木松ヶ本線南側自転車道・歩道)、高次都市施設(地域交流センター)、地方都市リノベーション推進施設(大学)					関連事業から基幹事業に変更		影響なし			
提案事業		なし											
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—							
	変更	—	—			—							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	交通利便性の満足度	%	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	10.8	H19	13.1(1.2倍)	H27	—	9.7	×	あり	交通利便性の満足度は従前値10.8%に対して9.7%と下がったが、この満足度は茨木市全域での交通利便性を問うものであったため、目標値未達成には対象地区外の交通に関する取り組みの状況が大きく影響していると考えられる。※地区内についての交通ネットワークの整備に関する満足度は「満足」が「不満」を大きく上回っていることから、対象地区における利便性は向上していると考えられる。	—			
	なし	●	—	—	—	—	—	—		—			
指標2	防災機能の向上	㎡/人	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
0.00	H22	2.00	H26	—	2.08	○	あり	計画区域内に防災公園である岩倉公園を整備したことで、避難圏域(防災公園から半径500m圏)内の一人あたり有効避難面積が目標値以上確保され、約53.8ha、7,199人の避難困難区域が解消された。また、避難路となる防災公園に隣接した道路についても、道路整備及び改良を行い、地域の防災機能が向上した。	—				
なし	—	—	—	—	—	—	なし		—	—			
指標3	産官学民交流センターの利用者数	人	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
0	H22	3,000	H27	—	6,538	○	あり	イベントホール等における産官学民が連携した活動・イベント等の実施や、図書館における近隣住民等の日常的利用により、利用者数が目標値を大きく上回り、地域の交流拠点としての機能を担っている。	平成28年4月				
なし	—	—	—	—	—	—	なし			—			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	対象地区における都市再生整備計画事業の満足度	%	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ペDESTリアンデッキを整備したことにより人が集まる空間が形成され、様々なイベントが開催されるなど地域の賑わいの創出が図られている。 ・防災公園については、防災設備の案内板を設置しているため、平常時でも防災設備を確認できることにより、利用者の防災意識が向上している。また、平常時は幅広い世代の利用者が多く集まり、地域における交流拠点の役割を担っている。 ・公共施設である地域交流センター(立命館いばらきフューチャープラザ)内に商工会議所が移動したことにより、従前に増して産官学が連携した多様な取り組みが実施されている。 												
5)実施過程の評価	実施内容						実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた			—			
	住民参加プロセス	茨木市総合交通戦略協議会 交通安全部会、公共交通部会、茨木市自転車利用環境整備計画協議会、茨木市バリアフリー基本構想協議会への市民委員の参加	都市再生整備計画に記載し、実施できた				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できた			● 今後も周辺道路や駅前広場のバリアフリー化等について意見収集を行い、関係機関と協議のうえ検討していく。			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できなかった						
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できなかった									
持続的なまちづくり体制の構築	茨木市自転車利用環境整備計画協議会、茨木市バリアフリー基本構想協議会	都市再生整備計画に記載し、実施できた				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できた			● 優先整備対象路線として位置づけ、安全安心な自転車ネットワークの整備を関係機関と協議のうえ検討していく。				
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

JR茨木駅南地区(大阪府茨木市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大規模工場跡地の土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備と交流・学習拠点の創出 目標1: JR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅の交通結節点の機能強化、両駅間の安全で快適に回遊できる歩行者・自転車ネットワークの充実 目標2: 災害時の一次避難地や避難路を確保し、地域の防災性を向上 目標3: 大規模工場跡地の整備インパクトを活用した、交流と学習のまちづくり拠点の整備	交通利便性の満足度	10.8	H19	13.1(1.2倍)	H27	9.7	H27	
	防災機能の向上	m ² /人	0.00	H22	2.00	H26	2.08	H26
	産官学民交流センターの利用者数	人	0	H22	3,000	H27	6,538	H27
	対象地区における都市再生整備計画事業の満足度	%	—	—	—	—	50.1	H27



まちの課題の変化

- ・大学キャンパスとその最寄り駅であるJR茨木駅や大阪モノレール宇野辺駅をつなぐ道路の新設や自転車歩行者道の設置などにより、地区内の歩行者動線が確保された。
- ・JR茨木駅東口のエレベーターの増設及びエスカレーター整備や、道路の改良や歩道の設置などにより地区内のバリアフリー化を進めたことで、住民へのアンケート調査における「地区内のバリアフリー化の促進への満足度」について60%以上の人から満足(「満足」、「やや満足」という回答が得られた。
- ・防災公園である岩倉公園の整備及び、避難路となる防災公園に隣接した道路の整備・改良により、地域の防災機能が向上した。
- ・大学と市民や企業などの交流の拠点施設となる「立命館いばらきフューチャープラザ」が整備された。また、整備後は施設において産官学民が一体となったイベント等を開催することにより、地域の活性化に繋がっている。
- ・JR茨木駅東口駅前広場の改良やJR茨木駅及び大阪モノレール宇野辺駅へのアクセス道の整備や改良により、鉄道やバスの利用しやすさが向上した。
- ・近畿自動車道及び府道大阪中央環状線については、横断歩道等の設置により地域の分断が解消された。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・交通ルールの周知や交通マナーの向上を図る安全教育を実施するとともに、街頭啓発や大学側の指導員と連携していくことで、交通安全対策を強化していく。
- ・防災公園については、大学キャンパスと一体となって、平常時から防災に関する設備の啓発や知識を学ぶ場所としての活用を進めていくことで、防災性を高めていく。
- ・今後も周辺道路や駅前広場のバリアフリー化等について関係者等から意見収集を行い、快適で安全な歩行者・自転車ネットワークの充実を図っていく。